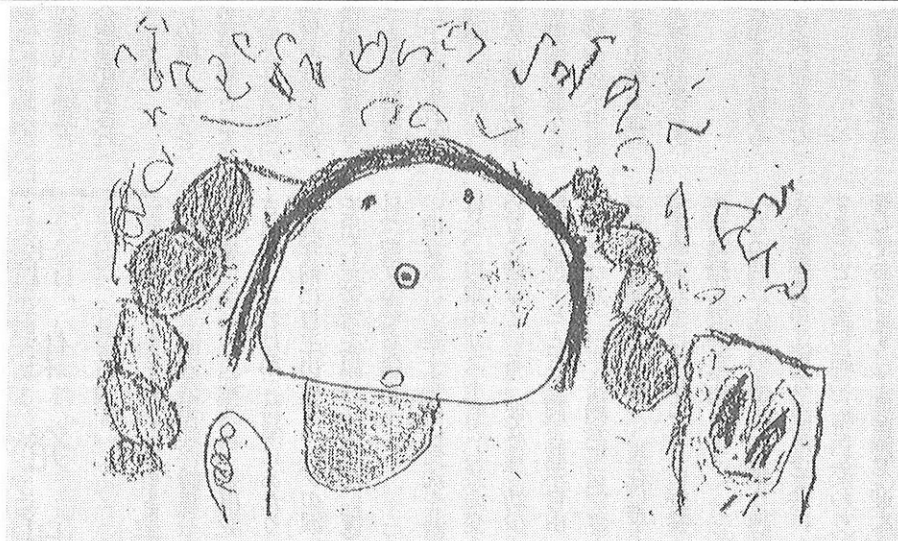


# 光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
 編集／光の子 編集委員会  
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277  
 TEL／0480-72-3883  
 振替／東京3-128022  
 印刷／(株)ドモン企画



3才 ひだり ふくこ

## のぶえさんとおでかけ

### 殺してはならない (出エジプト記 17:11)

理事長 福島 勲

ほとんど毎日T・Vや新聞で殺人が報じられる。人はこれを恐れていながら興味を持ってみている

も面白い加減にやめてくれたらよいと思うのに、次から次へと殺人事件を扱ってT・Vや小説が作られていく。まるでこれなしには小説や劇や映画など成り立たないかのように。

とはいえ、聖書も開巻すぐカインのアベル殺害を記録している。〔創世記四章〕 続く出エジプト記ではモーセの殺人があり、エジプト脱出後モーセはシナイ山で神から十の誡を受ける。

汝、殺すなかれ (第六戒) しかし、このあとも殺人、戦争が次々に起こっている。

あるラビは、惨殺など凶悪な殺人 (Murder) はいけないといい Killer は認めるような納得のいかない解釈をする。

イエスは、自分を捕らえに来た大祭司の僕を切りつけた弟子に、

ほとんど毎日T・Vや新聞で殺人が報じられる。人はこれを恐れていながら興味を持ってみている (52) またマタイ・七章では、他人に向かつて怒る者、愚か者、ばか者という者が、すでに殺人を犯し審かれねばならないと十戒の生きた解釈をされている。

創世記のカインの殺人の事件を読んでいくうち、まことに解釈のできかねるところに行きつく。カインは自分の非を悔いている。そして自分を見つける者らが自分を殺すだろうと言う。このとき神はカインを殺す者は七倍の復讐をうけるだろうと言われる。(十五節)

犯罪者の精神状態がノーマルでなく刑に耐えられないとの判決で無罪になる場合であっても、我々には割り切れないものが残る。神の御旨・人の生命の尊厳と許しの宣告はわれらの思いを超えたものである。

ざんげ告白、謝罪を求められる今日、過去の戦いや差別などについて反省し、ざんげすることは大

ざんげ告白、謝罪を求められる今日、過去の戦いや差別などについて反省し、ざんげすることは大

ざんげ告白、謝罪を求められる今日、過去の戦いや差別などについて反省し、ざんげすることは大

ざんげ告白、謝罪を求められる今日、過去の戦いや差別などについて反省し、ざんげすることは大

ざんげ告白、謝罪を求められる今日、過去の戦いや差別などについて反省し、ざんげすることは大

詩集 発刊

施設長 今関 公雄

切なことである。キリスト教は徳川時代、偏見と差別でどれだけの人血が流されたことか。僧侶も一役かって、キリスト者は神敵・仏敵で彼らを斬罪・炮烙にすべきだと建言している。

今日、日本人家庭のお寺との深い関わりは、宗門改め制度に負うこと大であると思う。結果的にキリスト教は感謝されても恨まれることはないはずである。

またキリスト教徒が、徳川の関係者やお寺さんに謝罪を求めたことなど聞いたことも読んだこともない。七度を七十倍する許しを命じられた、キリスト者の当然のあり方だろう。

慈悲を説き殺生を禁ずる仏教も声を高くして殺すなを説いてほしい。

人の生まれること、生命そのものが自然発生的なものとしての科学的理解からは、生命の尊さは説きかねよう。

神が作られた生命を、人は殺してはならないのである。どのような小さい生命も尊いのである。

このたび、岡井久子姉が詩集『愛を下さい』（聖文舎）を出版された。これは第二詩集にあたり十六年前に自主出版で『ヨブの涙』を出した苦勞を思い起こした（後日、聖文舎でも発刊）。

彼女とは、三十年前に受洗を共にし、以来キリスト者としての交わりを続けている。彼女は、幼少時に脳性マヒとなり両下肢不自由の身となり、三十才過ぎてテンカと筋萎縮症を併発し、現在は平塚十全病院では寝たきりの療養生活に励んでいます。

この間、生死の境を数回乗り越え、医療費の工面など苦勞を共にすることで実の姉弟に近い交わりをしております。丁度還暦を迎えた彼女にとって、詩集発刊は時機を得たお祝いとなりました。

彼女は重障者ゆえに神に全てを投げかけつつ、日々精一杯に息抜き△生命の讃歌△を唱う。本書は地上の目に見える世界に固執して

いるわれわれの眼を天に向け、心に慈雨の一滴をそそぐであろう。清らかな感動に浸りたい。

愛をください（二）

神様 あなたの愛によって愛されている私は なぜ ひとりのとなり人を愛することができないのしょうか 神様 主にある友や多くの人に愛されている私は なぜ ひとりのとなり人を愛することができないのしょうか 神様 愛をください 愛される愛ではなく ひとりのとなり人を愛する愛をください

幸せ

嫁ごともなく 長病みの日々を重ねる 空しい生活のはずなのに 心安らかに みちたりた 感謝の中に暮らせるのは なぜだろうか 神のあたえたもうた私の幸せ

喜びの原動力

美しくくしけする 長い髪はありません だけど私はうれしいの

です 器用に針を持つ すんなりした手はありません だけど私は楽しいのです とんだりはありません 歩いたり 動く足はありません だけど私は明るいのです なぜでしょう あなたからいたたたいた 永遠の命を 喜びの原動力にして おりますので 永遠の生命に生きる 希望が限りない喜びとなっておりますので

主よ

主よ あなたを知った今 いにしへの詩人のうたを心こめ 思いを深めて読み進みます 主よ 私にも謳わせてください 「主こそわが喜び わが望み」と 主よ 今はおあなたがいないなら 私はそのを考えられません あなたにすべてを委ねている私です 主よ 私にも謳わせてください 「主こそわが喜び わが望み」と

（付記）本詩集を約二割引きの千円で分けていただきます。私まで一報下さい。なお二冊以上が郵送に有利。送料当方負担。代金後払。

エッセー 色変えぬ松

伊藤 通明（俳誌「白桃」主宰）

母が不治と診断されたのは、残暑のつづく九月に入ってからで、あっという間に病気が縁がなくなりました。前月には阿波踊りに出かけてきたばかりであったし、前年には立山へ登ってきたことを自慢していたのである。

兄によると、異和感を訴えたのは旧盆のころのこと、腰が痛いといっ、かかりつけの先生に診てもらったときは、腰痛の薬を貰い、しばらく様子を見ましようというので呑気な顔をして帰宅したそうである。

三度目の通院のとき、精密検査ということで、そのまま救急車で国立中央病院に運ばれたのである。数日のうち、正確な病名が家族に告げられ、余命三ヶ月と知ったのである。

病院の廊下というのは、どうしてこんなに長いのであろうかと、通常では思ひもせぬことを考えた

りする。靴をスリッパに替えて、真々直ぐ五十米の突き当たりを左へ三十米、そこを右に曲がったところエレベーターがある。三〇

一号室というのは三階の一号室、母の病室である。時によつては夜の九時近い時間の面会であったりする。面会といつても、ただ見守るだけのことで、何もしてあげることがなかった。無力感に曳きずられながら、秋も終わりに近づく冷えびえとした長い夜があるばかりである。いつか私は、音をたてずに薄暗い廊下を歩いていく。確実な母の死に向かつて近づいているということを感じ、かつ実感しながら。

病院の駐車場は松林の中にあつた。そのあたりは九州でも有名な花見松原の一角にあたる。井上陽水の歌に「花見の駅で」というのがあるが、いつも静かな文字通り白砂青松の地である。かつて第二

次大戦中から戦後にかけて、結核専門の国立病院が三カ所もこの松原の中に設けられていたが、現在は一つに統合されて最新鋭の大病院になっている。

その頃の私は、新しく会社を興したばかりで、すこぶる充実した日々を過ごしていたが、母の終焉が近づくにつれて、悲傷、孤独、恐怖、無力感などが耐えられなくなつて、この長い廊下の時間が耐えられなかった。どちらかといえは強く、攻撃的ですからと考えていた己の性格から、いままでに考えたこともなかった弱さに茫然としていたといつた方がいい。

母が亡くなるまでの一週間、毎晩 病院に出かけながら病室へは行かなかつた。行かなかつたという方が正確である。暗い松林の駐車場のなかで、私はただひっそりと目を閉じているばかりであった。

臨終の朝、病院へ向かうため車のエンジンをかけたところ、前のワイパーに青い松葉がささっていたのに気がついた。都心のマンション住まいの私の周辺に松の木はない。不思議な思いで眺めている

と、昨夜の病院の駐車場にいときに降ってきたものに違いないと思いついた。俳句の季語に「色変えぬ松」というのがある。多くの木々は季節ごとにその色彩を変えていくが、常緑の松は四辺の紅葉の中でも色を変えないので、「色変えぬ松」として秋の季語となっている。色変えぬ松の鮮やかな落葉であった。

母が亡くなって十二年が経つ。

今年、私は句集「西国」を出した。いつか父や母は、ひっそりと私の作品の中から数をへらしていると思つていたが、改めて数えてみると十数句を記録している。

戻り来て火鉢を「母の方へ押す 屋簷貫む」母に呼ばれしかと思ふ 母の忌の終に花つきにけり 母あれば母を眺めて祭りの夜

そして、昨年の拙作である。

罽雲記憶は母にはじまれり

虹の国から

わたしのじまん

一年 おちあい けいこ  
 わたしは あさはやく、たいりよくづくりのまらそんをが  
 んばりました。まらそんは げつようびから どのようなまでの  
 らじおたいそうのあとにやります。一きろぐらいはしります。  
 はしるとき つかれます。とちゅうで あるきたい ときも  
 ありますが がんばります。はしっていくと あついでから あせ  
 をかきます。はしるとき よそのいえやたんぼをとります。  
 たんぼのところをとると どうろに たにしと ざりがに  
 がしんでいました。かわいそうでした。  
 はしって行って おおいときには 七にんぬいたときもあり  
 ました。まらそんで 一ばんになったり 二ばんになったりし  
 ました。うれしかったです。

十一日 また暗い三時に起きる。  
 驚いたことに子どもたちは起きて  
 準備完了だ。山頂を目指す。さす  
 がに山は寒いが、登り始める頃は  
 空が白み暖かくなる。

山登りにはさすがにGOGO会  
 の鷹文が一日の長を見せ頭張る。  
 一年生の珠弥も負けずに頭張る。  
 珠弥と照子は五合目半、權也と雅  
 志と千葉氏は六合目で引き返す。  
 陸男・鷹文・光代さん・直之の四  
 人で頂上を目指して頭張る。初め  
 はペースメーカーだった鷹文が途  
 中から落ち始め八合目を目前にダ  
 ウン。三年生としては出来すぎで  
 あった。光代さんと鷹文が下山。  
 鷹文より大きく遅れた陸男と離  
 れず登った。草も木もない砂漠の  
 ような山に、途中でへたりこみ寝  
 転んでしまふ陸男である。「ほら  
 っ陸男頭張れっ」「・・・(涙)」「  
 「泣くなよお」「だって、もう歩  
 けないだもおん」それでも歩き出  
 す。しばらく歩いて立ち止まり、  
 「どうして山になんか登らなけれ  
 ばならないのぉ」「なかなか哲學  
 的な質問をするね。登ったら下り  
 なければならぬのね。でも人

は何で生きるんだろうね。死ぬた  
 めに生きるのかな」などと語りか  
 けるが、(僕はそんな訳の判らん  
 ことを聞いてんじやないよ、ばか  
 とでも言いたげな眼で見返す。

休憩所がある度に休み、励まし  
 てやっとな合目を過ぎる。この頃  
 は観念したらしく「皆下りてるよ  
 まだ登るの」と穏か。「そっだよ」  
 と微笑んで見せる。そして、歩き  
 続ける。あの、着物を脱いだら横  
 着しか残らないような陸男が頭張  
 る。感動さえる。九合目半を過  
 ぎると「鷹文たちは頂上まで来れ  
 なくて可哀そうだなあ」などと言  
 い登る。弱音は全くなくなった。  
 約八時間後に頂上に到達！ついに  
 日本一の山を征服した。(坂巻指  
 導員の報告書より)  
 駿東学園の全面的な協力で、  
 丹沢の清流でパーベキューも楽  
 しませて頂きました。  
 そんな陸男君に、夏休み直前の  
 祖父母宅への家庭訪問の好結果が  
 この行事の直前に出た。山頂で買  
 い求めた、お祖父さんへのお土産  
 を持って、そのまま一泊の帰省が  
 実現したのです。

現場から

暮らしの風景 3

石毛 照子

お母さんやお父さんと離れて暮  
 らす子どもたちに、夏休みを楽し  
 く過ごせたいと思います。しかし  
 それには私たちの力は小さ過ぎま  
 す。この夏もたくさんの人々の美  
 しい心や力強い協力によって、  
 子どもたちや私たちの願いを実現  
 することが出来ました。  
 夏休み真盛りのお盆の頃は、帰  
 省が出来たようになった子どもた  
 ちが多くなり、佐藤家には五名が  
 残るだけでした。そのうちの二人  
 の幼い兄妹は、大阪で働いている  
 母親が来て二・三日ここで一緒に  
 過ごすのを待っていましたし、一  
 年生の雅志君は、お祖父さんが迎  
 えに来るのを待っていたのです。  
 結局、家族との関わりを持てない  
 のは六年生の陸男君と三年生の鷹  
 文君の二人だけでした。  
 そこで、佐藤家では、この五名を  
 連れて富士山に登ることにしまし  
 た。この計画は、一昨年ここで実  
 習し、今は富士山麓の駿東学園に

働く千葉雅樹氏の提案とご尽力で  
 実現したのです。  
 この計画で、願ったことの一つ  
 に陸男君のことがあります。小さ  
 い頃から親や大人に愛された経験  
 がなく、食事もろくに与えられず  
 ここに来るまで殆どインスタント  
 ・ラーメンで育った陸男君です。  
 身体の成長も充分ではなく、身体  
 を動かすような遊びはできるだけ  
 避け、出来れば部屋でゴロゴロし  
 ている方を好むのです。一言でい  
 えば横着が着物を着ているような  
 ものだなどと職員たちも言います。  
 でも、明るい面もあって子どもた  
 ちにはとても人気があり、知的な  
 発言は普通にしてはいるようです。  
 苦しんで富士山に登り、眼下に雲  
 を見る素晴らしい経験をさせ、活  
 動的なことからへの関心を育て、  
 横着からの脱出を願ったのです。  
 ○八月十日、総勢八名は混雑を避  
 けて夜遅くワゴン車で出発。駿東  
 学園の職員宿舎の空部屋に宿泊

虹の国から

かぶとむし

一年 おおさか いさむ  
 なつやすみに しんせきのいえにいつて うらやまに きが  
 たくさんあつて そのきのいちばんうえのほうに かぶとむし  
 が いました。  
 そして かぶとむしを ゆうがた とりました。  
 いえにかえってから むしかごに つちを 入れて あとを  
 きをいれました。きに みつをあげたら かぶとむしが みつ  
 を おいしそうに のんでいました。  
 そして くわがたと あかちゃんのくわがたを つかまえま  
 した。  
 こんど いばらぎけんの しんせきのいえに いったら ま  
 た かぶとむしと くわがたを とりにいきたいです。



現場から

### 輝きのかたち

その九

池田 祐子

年中組の一志ちゃんの初めての長い夏休みが、思い出になって、もう随分短く感じられるようになりました。

入園以来、幼稚園生活に慣れるのに随分時間がかかり、やっと慣れて来た頃に夏休みを迎えた一志ちゃんでした。

恒例の夏休み前夜祭にあたる

「夏休みオープニングフェスティバル」が行われる夕方から、園庭に東京電力のご厚意の電線ドラムのテーブルと椅子を並べ舞台を作り、パーベキューが始まります。席は自由席なのですが、驚いたこと

に、私の傍に座れないと不安でたまらなかった一志ちゃんが高麗君と一緒に小学生の集まっているテーブルについているではありませんか！少し淋しく感じながらも「ああ、やはり男の子になってきたな」と思い、夏休みの成長を期待せずにはいられませんでした。朝の目覚めもグズグズで、着替

も手伝っていましたが、夏休みが始ると、一番に起きて着替えをしサツと外へ遊びに出るようになりした。そして仲良しの俊二君などと駆け回り、私の傍よりはお友だちと一緒に遊ぶようになった一志ちゃんです。

タカラクラブのご厚意で軽井沢に遊び、八月の始めは原田家の海水浴です。去年と同じ茨城の海で今年の一志ちゃんは去年と違います。波が怖くて水に入れず砂遊びでしたが、俊二君と一緒にキャッキャッと歓声を上げ、少し怒りん坊の波とは鬼ゴッコで楽しそう。

「海へ入ろう」と抱っこすると「自分で！自分で入るの！」と足をバタバタしてガンバります。「えーっ自分ではいれる？」と見ていると、足元でパチャパチャやっつてニコニコきげんです。灼けるような太陽の下で泣き声は聞こえませんでした。

浜で一志ちゃんのパンツに砂を

入れて遊んでいました。立ち上がって歩く姿は一年前の一志ちゃんのをそれとそっくりです。「一志ちゃんウチもらしたでしょう」とからかうと「ちがうもん！」と怒ります。からかいながら、成長する力に改めて驚かされます。

去年泣き声の絶えなかった砂浜にはニコニコ顔の一志ちゃん。ウチおもらしたが、その真似をして遊ぶ一志ちゃん。伸びる大きくなる一志ちゃんです。

お盆はお父さんとお祖母さんのお家で過ごし、たくさん甘えてきました。

一志ちゃんの初めての夏休みが終わる頃には、職員も「一志ちゃんすごいね」といって成長した様子を確認してくれました。

この頃では、一年生の湊子ちゃんがシクシク泣いたりしていると、「湊子ちゃん、何泣いているの？誰かいじめたの？」「そうか、そうだよね」などと話かけ、自分も眼をうるませながら同情もできる優しい心も大きく深く育ってきました。いつの間にかこんなに優しい子どもになって・・・と目頭が熱

くなるような感動を与えてくれます。やりとりしている傍に行き、「一志ちゃんが優しいから、もう湊子ちゃんも泣かないよね。」などと、わけの分からないようなことを言いますと、ニコリ納得の一志ちゃんです。その笑顔はまさに百万ドルの値打ちものです。

一志ちゃんは子どもたちの中でたくさんのお話を学び、昨日よりは今日、今日よりは明日とバリエーションをたてながら伸びているようです。そんな一志ちゃんの何の支えにもなれないかも知れませんが、でも、△邪魔△にだけはならないように見守る者であり続けたい、と思います。

眩しい烈しい夏のキラメキは子どもたちの周りにはもうありません。深まりゆく秋の中で、子どもたちの悲しみや淋しさをいたわりながら、強くたくましく育っていきさまを優しくつつみこむようなキラキラの季節です。

の動きを充分把握していなかったのではないかと思われる。父親と

養護メモ

### 自立

その六

人野隆の場合4

菅原 折男

隆の父は離婚して間もなくもう一度、別れた隣子と復縁したいと言いはじめた。再婚を約束していた人との関わりをもちながら、その人との関係が二月に精算されたことで父親と母親の復縁の可能性が具体的な関わりを伴って現実的なものとなってきていた。

一月の半ばには隣子が尋ねてきて「母親として出来ることがあったらやらせて欲しい」と言ってきた。しかし、子どもたちに直接関わることは父親の問題が解決するまで遠慮願っていた。

殆ど毎日隣子のアパートで父親が夕食をするようになったのは三ヶ月も間もない頃であった。

隣子と面会を重ね、父親の隣緒とやり直す可能性を探ったが、意志を確認するには至らなかった。祖母が腎臓病で入院したことが入野兄弟の入所の理由だったのだが、その祖母が一月に退院した。しかし、病状は思わしくなく家事

など必要最小限しか出来ず、隣緒の再婚か復縁などで、入野兄弟の引き取りと家庭の再建を祖父も隣緒も目指していたのである。

復縁には消極的だった祖父も三月になると、父親の言い分を了解し、隣子との復縁を待っていた。子どもとの離れお遊戯会を隣子は変装してまでのぞきに來たり、入学式も遠くから見つめていた。

隣緒や祖父と話し合い、入学式の後に光の子どもの家で隣子と子どもたちの面会を実現させて入学を祝うことができたのである。

隆の入学の前夜からは、ほぼ毎週のように父や祖父がやって来て子どもたちと遊んだり食事を共にしたりするようにになった。加えて母親との十ヵ月振りの再会を果たし母子関係の回復を図れるようになった子どもたちの状況を、私は豊かになったと判断していた。

その後、殆ど父親主導で、夏休みをメドにした家庭引き取りを目

指すというとりくみへと私たちもなだれこんでいった。

隆の学校での言動は、担任教師との関係を著しく悪いものにし、それにつれてクラスでも孤立していった。なす術もなかった。しかし光の子どもの家での生活や言動に変化は見られなかった。

○六月十二日、職員会議。隆の状況を分析し、対応を協議。

○同十三日。熊谷児童相談所の福祉司と心理相談員が来訪。隆の問題を検討する。その結果、

○関わる家族の意思や価値判断が同じ方向を向いているかどうかを明確にすること。○その上で、一致出来る範囲で大人が関わるよう整理していく。○方向や方法の確定を急ぎ、教師の連繫と協力を得るよう努力するなどを確認した。

この頃、どうも私たちは、隆を取り巻く家族の意向や要求に振り回されていたようだ。

明確な隣子の意志を確認できないまま、夏休みに長期の帰省を実現し、家庭引き取りを可能にしていくことに気をとられ、子どもたちの生活内容や深いところでの心

の動きを充分把握していなかったのではないかと思われる。父親と隣子の意志と他の者との落差。それらが子どもたちに直接的に表現され要求されていたのであった。子どもは父も母も祖父父母もみんな一度に欲しい。これは驚沢な願いではない。だから、面会や外出週末帰省を喜ばない筈はない。しかし、関わる大人たちが違う方向で思いのままに引張ったら、子どもは引き裂かれる。願わしい大人たちと関わりたいが関わりたくないのである。

何よりも、祖母が退院するまでのほんの少しの間だからと、説得しての施設入所が、祖母が退院した後も「何でボクはお家に帰れないの？」という隆の疑問に誰も答ええていなかったのである。

○六月十九日。父宅を訪問して調整。同二十日、隣緒が来訪し、兄弟にすぐには引き取れないことを謝り、小学校を卒業するまでここで頑張ってくれるように頼んだ。隆は固い表情を見せたが頷いた。

(この項つづく)

# 日誌抄

六月十六日  
八月十日

六月十六日 杉の子保育園の星野園長ご夫妻来訪してお励まし。  
十八日 幼稚園で「父の集い」実施。お父さんがたと楽しい一日。  
○はむご会の大塚氏来訪。たぐさ。  
んのご支援をありがとうございます！  
二二日 東洋英和女学院美術部より手作りの木馬を頂く。感謝。  
二二日 北海道、東北、大阪方面から家庭訪問をこの日から。楽しい夏休みになるよう祈って。  
二八日 ビエロさんよりパンとお励ましを。ありがとうございます！  
三〇日 埼玉真立衛生短大より一六名が見学に来訪。  
○草加市の小林氏よりアヒルを五羽頂き、ガアガア賑やか！感謝  
○駒西町の川田さんより植木をたくさんいただく。感謝。  
七月三日 剣友会の早朝稽古開始  
七日 鎮守のお祭。神輿をかついでワッショイワッショイ！  
九日 栗橋町の八百亀さんよりバナナや果物など沢山。感謝。  
十日 江森理容店主のご奉仕。

○羽鳥氏より自動車用品等いただく。ありがとうございます。  
十二日 小川一夫氏よりサクランボをたくさん。ありがとうございます！  
○小学校授業参観。授業について頑張っている子も置いていかれてしまっている子も・・・。  
十三日 坂田一雄氏より昔使った荷馬車をいただいたき園庭に設置。子どもたちの遊び場に。感謝。  
十六日 女子聖学院短大CCFのW・C（ワークキャンプ）  
○幼稚園、小学校にお願いで個人面談を。夏休みの課題の確認  
十八日 中学校の授業参観。二名の中学生生活をママアアでにホッ。  
二二日 一学期の終業式。通知表にニコニコ組もシブシブ組も。夕方から園庭でバーベキューとこの夏休みの課題と決意表明のオープニングフェスティバル。  
二二日 しずくの会の方々二〇名の草取りボランティア。子どもたちと一緒にの昼食会も。ギリギリの日射に汗・汗・汗。感謝。  
二三〜二六日 夏期行事第一弾！GOGO会恒例の八ツヶ岳踏破行！北八ツの横岳から大岳！双子

池！縞枯山を難無く征服。この力を学校でも社会でも。必ず！毎年ご協力の倉沢氏とご家族やご一統様に、心から感謝。  
二六日 国際婦人福祉協会より今年も地盤沈下により破損した配管の修理・点検と土盛・植栽工事のためのご援助を。感謝。  
二八〜三〇日 夏期行事第二弾！タカラクラブのご厚意で軽井沢高原へ。一年生の虹の会は物語山の宝探しの予定が台風で草津クア・ハウスに変更して満喫。沢沢のおばさまにご挨拶も。  
二八日 鷲宮町の斉藤さん衣類など。ありがとうございます。  
八月一日 栗原忠氏いつものお励まし。ありがとうございます。  
二日 東大宮教会学校キャンプを台風のため教会で一泊二日で。  
七日〜九日 夏期行事第三弾！八八会総勢九名が新潟の海へ。東中通り教会のご厚意でホームステイと教会での合宿を。細やかなお心づかいに子どもたちも職員も感謝・感謝・感謝の三日間  
八日 夏期行事第四弾！原田家が茨城の海へ。今年も。(くら)

## 反射光

ダイニング・ルームの窓越しに枝垂れ咲く萩の葉っぱが黄色がかって揺れています☆忍び寄る季節が変えた色たちにハッとさせられます☆知らない間に馬蹄を重ね内心忸怩たる思いに苛まれるこの頃です☆過ぎていった五年は悪行と悔恨の夥しい異積のようです☆何の気なしに開いたアルバムに見る子どもたちの成長に驚かされます☆そのために私たちの愚かささえも用いられていることにもまた感動します☆これからの五年間も賢く適切な子どもへの関わりは保障の限りではありません☆子どもたちの寂しさを慰め痛みを和らげるために愚かな私たちを潔めて用いられるよう祈ります☆第五回の感謝の集いの準備に大わらわです☆たくさん沢山のお祈りをお支えに励まされてきました☆そんな思いを込め、おもてなしします☆至らないことどもはお許し下さい☆足早に通り過ぎる刻々が子どもたちの成長を促し、私たちの新たな決意を促します☆更なるご支援とお祈りを！切に・・・(哲)